

【鶴見区】令和 2 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 2 年 6 月 9 日（火）午後 2 時 40 分 ～ 午後 3 時 45 分
場 所	鶴見区役所 6 階 8・9・10 号会議室
出席者	<p>【座 長】 渡邊忠則議員</p> <p>【議 員：6 名】</p> <p>井上さくら議員、古谷靖彦議員、尾崎太議員、有村俊彦議員、東みちよ議員、山田一誠議員</p> <p>【鶴見区：26 名】</p> <p>森健二区長、松本智副区長、菊池孝福祉保健センター長、今仁知宏福祉保健センター担当部長、水上典男鶴見土木事務所長、下枝昌司鶴見消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和 2 年度鶴見区の予算について 2 令和 2 年度鶴見区個性ある区づくり推進費予算について 3 令和 2 年度個性ある区づくり推進費自主企画事業費等執行計画について 4 第 4 期鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）の策定状況について
発言の旨	<p>東 議員：防災活動推進事業について、コロナ禍における避難所運営のあり方として、在宅避難や親戚宅等への避難が推奨されるとの話があった。去年の台風では 2800 人もの方が避難されているが、今年は違うということをお知らせにどのように周知するのか。</p> <p>柏木 総務課長：在宅避難等については、これから周知に取り組んでいく。多くの方が避難所を目指すという現状の中で、避難所となる学校で、今までのように体育館だけではなく、できるだけ密にならないように多くのスペースを活用して避難することを目指し、現在、各学校を個別に回っている。個々にどこまでお借りできるか、学校の理解を十分に得ながら、これからの台風シーズンに取り組んでいきたい。区民の皆さんに対しては、危険になれば避難場所へというところは大きく変わらないが、避難した先で密にならない対策はしていきたいと考える。</p> <p>東 議員：鶴見川防災情報講座の支援について、本来なら 6～8 月に実施す</p>

るところが 10～12 月に延期となっているが、台風の出水期を考えると遅いのではないか。京浜河川事務所に昨年の台風 19 号の話を聞いたところ、たまたま大雨の時間帯が干潮の時間帯であったため運よく川に流入するなど、いろいろなことが重なって洪水が防げたとのことだった。必ずしも昨年のように防げるとは限らない中で、専門家の意見を聞いて、地域の皆さんに理解していただくことが大事ではないか。

柏木 総務課長：出水期を外れては功を奏さないというご意見もあるかと思う。主催する京浜河川事務所とも話をしながら、適切な時期に実施できるよう進めていきたい。

東 議員：子育て支援事業では健診などが 6 月実施分まで中止とのことだが、7 月以降はどうか。

御小柴 子ども家庭支援課長：乳幼児健診は、7 月からの開催に向けて調整を進めている。地域における子育て支援に関しては、会場をお借りして実施するものも多いため、先方の会場の使用状況にもよってくる。また、子育て支援事業は、子どもや親同士が近しく交流する機会を作るという事業でもあり、三密を避ける一方で、コミュニケーションは深めたいという、このバランスに頭を悩ませつつ進めている。

東 議員：児童虐待防止の面からも、親御さんと対面する場があるということとは予防策にもなると思うので、何らかの努力をお願いしたい。

古谷 議員：今回の新型コロナの問題は、まさに大きな災害として捉えるべきもので、災害時医療という点でも、区内の医療機関の様々な連携が必要とされる事例だと考える。その中で、発熱などのいわゆる新型コロナの疑似症例があったときに相談センターに問い合わせると、かかりつけ医に行くよう案内されると思うが、そのときに、かかりつけ医は診てくれず、どこに行ってもいいかわからない、あるいは、救急車がたらい回しになる、などの事例を多く見聞きしている。今後、秋から冬にかけてインフルエンザシーズンが始まったとき、大変な事態にならないかと危惧している。その際に、災害時医療体制の推進に協力いただいている病院や医師会の皆さんとも調整して、鶴見区ではこういう体制にしていますというように、区民の皆さんに何らかの安心できる材料を提供していただきたいと思うが、どうか。

市川 福祉保健課長：かかりつけ医に診療を拒否されるという相談は、区役

所の方にも入っている。鶴見区は東部病院を中心として医師会や病院などの連携も進んでいる。災害医療連絡会議等の場を使いながら、そういう連携なども確認していきたい。また、新型コロナの関係では、いま、医師会を中心にドライブスルー方式の簡易検体採取所なども設置しており、診療拒否につながらないように工夫もされている。秋の第二波に向け、区としてできることを検討し、対策を立てていきたい。

古谷 議員：簡易検体採取所については、区の医師会の皆さんが本当に努力されて輪番で当たられていると聞いており、感謝している。ただ、発熱してかかりつけ医に断られたと区に電話しても、区の方では特定の医療機関を案内することはできないと思うが、そこが、繋がらない一番の大きな問題ではないか。そのときに、この病院なら横浜市の病院として確実に診ますよと案内できるような仕組みを、ぜひ市全体で整えてほしい。区としても、これから感染症シーズンになれば大きな問題になるので、必ずお願いしたい。

古谷 議員：区庁舎屋上の太陽光パネルの件の進捗はどうか。

柏木 総務課長：昨年度末に改修作業をして、現在は、全体からすると僅かではあるが、太陽光発電がされるようになっている。また、今回の改修で、災害時にもコンセントいくつか分を非常用として備えられるように対応することができた。

古谷 議員：今度は、故障したときに予算がないということにならないよう、備えてほしい。

古谷 議員：北寺尾のサムエルはらっぱの件は、現状、どうなっているか。

岩田 地域振興課長：サムエルはらっぱについては、除草などの管理を地域で行ってきたが、数年前から管理作業の負担などの課題があり、返還の相談を受けていた。12月下旬に地域の方から返還届が出され、それを受けて令和2年3月末をもって返還され、現在は区の管理となっている。

古谷 議員：管理は区ということだが、直近で何かする予定はあるか。

岩田 地域振興課長：ここは普通財産の土地で、跡地利用について、財政局等で検討している。長年地域に親しまれた土地であり、引き続き丁寧に対応しながら考えていきたい。

古谷 議員：地域の皆さんにとっては、本当に故郷を感じられる場所だと思うので、ぜひ何らかの形で活用ができるような手立てを講じてほしい。

有村 議員：鶴見・あいねっつについて、新型コロナの影響で懇談ができないなど、スケジュールに影響がでているのか。

市川 福祉保健課長：新型コロナの影響が出始めた2月中旬くらいから現在まで、現状として地域の話合いがほとんどできなかった。

有村 議員：スケジュールは調整中とのことだが、予定どおり作ることが目的ではない。例えば半期ずらすといったことも視野に入れて検討しているか。

市川 福祉保健課長：おっしゃるとおり、計画を作ることが目的ではなく、地域の皆さんが話し合っ作るものであり、スケジュールについても健康福祉局と調整中である。3月末策定というのはほぼできないため、延ばす期間を調整している。決まり次第、ご報告する。

有村 議員：重要な計画なので、しっかりと地域と顔をあわせて声を聴いて、それを盛り込んでほしい。

新型コロナに特定するわけではないが、感染症が蔓延したという状況の中で、新たに感染症拡大防止に関して学んだことがあると思うが、そのようなことは盛り込む予定はあるか。

市川 福祉保健課長：地域のコミュニティについては、密にならない中でどのように見守りや地域の話合いなどを進めていくか、新しいやり方も必要になってくると思うので、その辺もできれば盛り込んでいきたい。

有村 議員：地域の見守りもここ数か月止まってしまっている状況が見受けられる。見守りの在り方などについても、ぜひ課題として盛り込んでほしい。

有村 議員：鶴見駅の喫煙所は5月2日から一時閉鎖していたが、現在はどうか。

露木 資源化推進担当課長：5月中は東口・西口ともに閉鎖していたが、6月から再開している。

有村 議員：閉鎖中に何か大きな問題や、区役所への苦情はあったか。

露木 資源化推進担当課長：苦情等は特になかった。皆さまにマナーを守っていただいていた。

有村 議員：そうであれば、ずっとなくてもいいのかもしれない。そういったことも踏まえ、喫煙所については場所等も含めて今後も検討してほしい。

有村 議員：末吉橋架替事業について、かなり前から架け替えを前提に調整を進めており、平成 25 年には川崎市と具体的な調整に入っていたが、代替の仮設橋を架けるにあたって、該当の場所で家屋の建て替えがあったため、今更どいてくれとも言えず工事に苦勞しているという状況がある。こういうものは、もっと前から調整できなかったのか、区の方で状況はわかるか。

飯島 区政推進課長：恐縮だが、区では道路局の方からそういった話は聞いていない。

有村 議員：住んでいる方も本当に知らなくて建て替えたものなので、今後そういった事業の予定があるときには、早めに地域に情報提供してほしい。

井上 議員：コロナ禍での防災対策について、大雨の時期が近づいているので、具体的にぜひやってほしいものがある。地域防災拠点ごとにスペースの拡張について調整しているとのことだが、マニュアルでは、まずは体育館、足りなくなったら次は教室となっている。学校側との調整も必要だろうが、最初から体育館だけではなく教室も開けますというような、マニュアルの変更が必要ではないか。

また、他都市の事例で見たが、体育館でスペースを作る際に、スペースとスペースの間を高め段ボールで仕切り、別の家族間の飛沫が飛ばないようにする方策が始まっているようなので、応急処置でもいいので準備はすべきではないか。

マスクや消毒液の備蓄も、今まである分だけではなく、各拠点で量を増やすなど、やれるところはやってほしいと思うが、どうか。

柏木 総務課長：マニュアルについては、当然、スペース確保に合わせたものにしていくべきだと考えており、区役所側でいまマニュアルの整備を同時並行で進めている。進め次第、また地域の皆さんと共有していきたい。

段ボールの仕切りについては、他の自治体、特に大阪方面で進んでいると聞いている。おっしゃるとおり本当に必要な時期はもう来てしまうため、横浜市としてどう考えていくのか、総務局危機管理室と調整をしながら、一緒に考えていきたい。

マスクや消毒液の備蓄については、第二波、第三波に備えて一定規模

のものをしっかりと備えるなど、市全体の備蓄計画も踏まえ、必要などきに地域に届けられるよう準備を重ねていきたい。

井上 議員：これから補正予算について定例会でも議論するので、ぜひ危機管理室に具体的に要求してほしい。

井上 議員：新型コロナの影響で災害医療連絡会議の実施時期を検討中とのことだが、いま民間企業ではアプリを使ったオンライン会議などが行われている。第二波が来るかもしれない中、そういうときにこそ医療機関でのリアルタイムのやり取りが必要となることもあるので、今のうちにオンライン会議ができる体制を、医療機関、区役所、消防署などでつくることはできないか。

市川 福祉保健課長：現在、オンライン会議のアプリに必要なヘッドフォンやカメラなどが足りていないのが現状となっている。ただし、こういう会議は必要だとは考えており、導入の時期等はまだはっきりとはしないが、積極的にやっていきたい。

井上 議員：もっと本当に深刻な状況になってから整備しようと思っても間に合わないので、今の時期から準備をしてほしい。

井上 議員：寄り添い型学習支援事業については4～5月分が実施中止になっているが、学校が休校となっているから余計に必要だったという面もあったのではないかと思う。今回の中止は仕方なかったとしても、次に緊急事態となったとき、スペースを広げたり、あるいはタブレットやオンラインでフォローしたりと、どうすれば持続可能になるかを検討してほしい。他の事業も含め、今回の第一波では、とりあえず中止するしかなかったものは多かったと思うが、次は別の方法で、例えば規模を縮小したり頻度を落としたり、どういう方法があるかはわからないが、できれば継続してほしい。特に、この寄り添い型学習支援のようなものは、現場をわかっている区から、これがあればもうちょっとやれるなどの情報を上げてもらいたい。

伊藤 生活支援課長：寄り添い型学習支援事業については、6月から再開はしており、現在、鶴見中央ケアプラザのデイルームを使わせてもらい、距離を保ちながら密にならないように実施している。現在、新規の子どもがまだ入っておらず持ちあがりの子どもだけという中で、数的な問題はとりあえず回避できている状況となっている。第二波の際の支援の継

続について、現在はタブレットやアプリの活用に必要な機材が全くない状況だが、事業を所管する健康福祉局には区からの意見としてあげていきたい。

井上 議員：感染症パンデミックによりやめなければならない事業もあると思うが、事業によってこういう段取りを踏んでいけば継続ができるなど、全体で一斉に止めるしかないという以外のやり方が何かないだろうかと思う。各事業で、新たなコロナ時代の事業継続方針やその計画を、ぜひ考えてほしい。

井上 議員：鶴見・あいねつとを策定中だが、感染症で緊急事態となったときにどうするかという視点も入れてほしい。また、感染症対策ということがまさに地域福祉保健計画なので、地域における感染拡大防止という項目があってもいいくらいだと思う。それらに日常気を付けていくということ、いま言われているウィズコロナという視点で考える時だと思うので、ちょっと時間がかかっても、新しい視点をぜひこの鶴見・あいねつとに入れられないか。

菊池 福祉保健センター長：内容的には、災害、健康づくり、見守りという意味で入っていると思うが、特に感染症、この新型コロナで経験したことを踏まえ、改めて考えていきたい。

山田 議員：認知症支援事業について、外出自粛が叫ばれている中で、本来はどんどん外に出ていかないと認知能力や身体的能力が落ちてしまう恐れがある高齢者も家にいなければいけない状況だが、認知症初期集中支援チームも4～5月は月例会議が中止となっている。この間も、支援チームの訪問は行われているのか。また、どうしてもステイホームという習慣が染みついている中で、今後、萎縮しないような取組も必要かと思うが、現在の状況と今後の取組はどうなっているか。

高島 高齢・障害支援課長：認知症初期集中支援チームの月例会議は中止となったが、新規に相談があったものについては、資料やデータを医師などに問い合わせするなどして、支援の決定まで繋がったケースもあった。必要な状況であれば、当然、訪問あるいは電話等を使って対応している。広く集まっていたくようなものに関しては、やはり中止せざるを得なかったが、6月に入り、感染防止対策なども踏まえた形での再開に向け、現在調整している。

尾崎 議員：新型コロナの影響でいろいろなものが中止になり、テレビなどでも過激な自己主張をする人がクローズアップされるなど、地域を分断するような動きが非常にでていていると感じる。区役所は市民から見た最前線にいると思うので、行事などいろいろなことが自粛にはなっているが、だからこそ余計に丁寧に、コミュニケーションをよくしてほしい。我慢しなければいけないこと、主義主張が通らないこともいっぱいあるが、だからといって何かをやり玉にあげたりすることは決して市民生活をよくすることではないので、こういった時期こそ、区役所がうまく取りまとめ、クッションになってもらって、鶴見区としてみんなでしっかり乗り切っていけるように進めてほしい。

渡邊 議員：花月園の運営が来年度くらいから始まると思うが、その管理について、予算はきちんと確保されているのか。

水上 土木事務所長：比較的大きな公園が一つ増えることとなるので、土木事務所としても局に予算をつけてもらうよう要求をしている。これから予算編成の時期になるので、引き続き要求していきたい。

渡邊 議員：議員の方もしっかり連携をしていかないと、一方の予算が増えると、もう一方の分が回せないとなってはいけない。議員も力を合わせ、区民の皆さんにいいサービスを提供できるよう、この会議をしっかりとやっていきたいと思う。

備 考